

七夕まつり、交通実験、そして今 「七夕まつりについて考える」 その1

このシリーズは、この豊中駅前を、まちの多くの人々が願う『安全で安心して楽しく歩き回れるまち』にするにはどのようにしていけば良いかをみなさんと共に考えて行きたいと企画しました。ご意見、ご感想をFAX又はメールにてお寄せ下さい。

豊中駅前まちづくり推進協議会 事務局

連絡先

FAX : 06 - 6858 - 6190 / メール : at.machi@mail.tmconet.com

先月の12日に七夕まつりが開催されました。豊中駅前が年に1度、数時間だけですが、歩行者が車から解放され、自由に歩きまわれる一大イベントです。今年で第30回目、よくよく考えてみれば、この間1度も中止される事なく続いていると聞き、改めて駅前の商業者の根気と努力に敬服します。豊中駅前の変遷と共に繰り返されてきた「七夕まつり」の始まりとその移り変わりを振り返り、まちづくりにとっての意味を考えたいと思います。

先ず七夕まつりの始まりについて、生みの親の一人である松浦さんにお聞きしました。

—— 何がきっかけで「七夕まつり」をする事になったのですか

【松浦】「歩行者天国にしたい！日頃お世話になっているお客さんに特に子どもさんに喜んでほしい。これが商店街の店主みんなの声でした。

昭和54年が始まりです。一番街の東側を歩行者

専用とし、車道の真ん中に工事用のバリケードを立てました。商店街の両サイドには笹飾り、各店舗の前では金魚すくいやヨーヨー釣りなど、今と同じような店が並びました。その時から「テキヤは入れない」と決めていました。いざ始めて見たらびっくりするほどの人が来てくれました。警察の発表で6万人だったそうです。当時ボゼムビルもジオ1300もありませんでした。ゲストは藤田まことと海原さおり・しおり、舞台はボゼ

ムが建つ前の原っぱでした。

「来年からは認めん」と警察に言われましたが、実は翌年から本格的な七夕まつりが始まる事になりました。銀座通りや新開地市場、阪急市場などが加わって駅前全体のまつりになるのですが、何よりもそのための関係機関との話し合いと言うか、理解してもらい許可を貰うのに大変でした。警察はもとより、国道事務所、阪急バス、消防署、豊中市、もっとあったと思いますが、余り覚えていませんので、調べるなり、当時のことを知った人に聞いてください。

なんせすごい数の人が集まりました。当時歩行者天国は東京ではありましたが、全国では未だ珍しい事だったようです。

—— ありがとうございます。

次回は大変苦労した許可を貰う話や七夕まつりの思いなどでお伝えします。



写真：昭和54年第1回七夕まつり

(松浦氏撮影)

会 員 募集中 共に、生き生きとした、誇りが持てる、安心して住み続けられるまちづくりを進めませんか

年会費(一口以上何口でも)
個人会員 一口 300円
商店会員 一口5,000円

問い合わせ先：
まちづくりセンター(協議会事務局)
TEL / FAX: 06 - 6858 - 6190

レンタルスペース

いけばな教室、あみもの教室、パッチワーク教室、木彫り教室、英会話教室など種々の教室や会合など幅広くご利用いただいております。机、椅子(10脚ほど)などご利用いただけます。曜日や日時の詳細はお問合せ下さい。

ご利用いただける時間	ご利用料金
10:30 - 12:30	3,000円
13:30 - 15:30	3,000円
月二回利用	5,500円
10:30 - 17:00	7,500円

自費出版

詩歌、小説、エッセイなど自分の作品を出版したい方はたくさんおられるようです。書店の店頭で自分の本が並ぶことは心地良いものです。多くの人に読んでもらうことで自己を表現したい。インターネットのブログは自費出版の電子版ともいえるでしょう。ブログは比較的簡単に始められますが、自費出版はチョッと面倒です。以前、自費出版を請け負っている出版社が提訴されたことがありました。出版界という独特の業界が依頼主と意見の相違を生んだのです。書籍は簡単に作れますが、書店の流通に乗せることはほとんど不可能です。自ら書店を回ってもほとんど置いてくれませんし、回れる書店の数は限られます。自分で作って知り合いに配る、という気持ちで出版するといいかもれません。